



## 『スパークス 日本株長期投資のすすめ』

スパークスの株式投資、株式市場などに対する見方を紹介するコラムです。

## 第17号(2008年6月27日)

## 「投資期間と投資成功率」

今日は皆さんに、コインゲームに挑戦していただくところから、お話を始めたいと思います。10回中7回以上表が出るまで繰り返しコインを投げてみてください。いかがですか?ほとんどの方は途中で挫折されたことでしょう。この時の確率を計算すると17.2%ですから、数字の上でも至難の業であったことがお分かりいただけます。

さて、前置きが長くなりましたが、投資の世界でもこれと同じようなことが起こります。それが短期投資の場合です。短期的には市場はランダム、つまり、一つ一つの事象が互いに独立した状態がかつ予想不可能であるという説があります。ある銘柄への投資が成功するか失敗するかは、全く予測不可能、まるでコインの裏表に賭けているようなものだということです。実際の投資の場合、コインとは異なり、売買コストが発生します。これを考慮に入れ、10銘柄うち7.5銘柄以上の株価が上昇してはじめて、その投資家の損益はプラスマイナスゼロとなるというデータ\*があります。この場合パフォーマンスの大きさは考慮に入れずに、単純にプラスかマイナスかという点だけを見えています。先ほど皆さんに体感していただいたように、短期投資で利益を上げることは、コインゲームのように不確実性が高く、とても難しいことであると言えます。

では、投資期間を長くした場合にはどうでしょうか?アメリカの証券市場において投資期間を1ヶ月、3ヶ月、1年、5年に設定し、リターンとの関係を調べた実証研究\*があります。この研究では、その会社がどんなビジネスをしているかは全く考えず銘柄選択を行っていますが、その場合でも、投資期間が長くなればなるほど、プラスのリターンが出る確率は高まる傾向があることが示されています。投資期間が1ヶ月の場合、リターンの振れ幅が大きく、はっきりしたトレンドがありません。平均的には投資成功確率は50%を若干上回る程度です。先ほど申し上げたとおり、投資家の損益がプラスマイナスゼロとなるには投資成功確率が75%以上でなければならぬと仮定すると、この投資は損失を生み出す可能性の方が大きいということになります。

投資期間が3ヶ月の場合の投資成功確率は平均して60%弱です。取引コストを考慮すると、損益分岐点(75%)を下回り、この場合も利益が出ない可能性の方が大きいといえます。投資期間が1年の場合の投資成功確率は平均して70%になり75%を上回る期間も多いのですが、投資時期によってはその確率が50%まで低下することもあります。投資期間を5年まで引き延ばした場合、投資開始時期に関わらずその投資が成功する確率の平均は90%に限りなく近づきます。ここでとても重要なのは、どの期間においても成功の確率が80%を下回らないため、損失が発生する可能性が小さくなるという点です。このことから、投資期間が長くなればなるほど、株式投資で成功する確率が高くなることがお分かりいただけたと思います。

\*出所: How to Pick Stocks Like Warren Buffett, Timothy Vick



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。

## 『スパークス 日本株長期投資のすすめ』



スパークスの株式投資、株式市場などに対する見方を紹介するコラムです。

第17号(2008年6月27日)

(注) 本コラムは、マネックス証券Web-Site「マネックスラウンジ」の「マネックスメール」に掲載されている「スパークス・アセット・マネジメントの『SPARX Way』」をもとにスパークスが作成したものであります。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。